

## 手話で語り継ぐ 被爆体験伝承班者の会

伝承班

被爆体験と平和への思いを受け継ぐために、今年も活動に取り組んでいきます。現在、班員は6人です。毎月持ち回りで書いている活動報告の通信原稿も全員無事書き終わり、二巡目の担当が回ってきました。時々立ち止まり、後ろも振り返りながら、一步一步活動を進めています。通信を読んで活動に興味を持たれた方は事務所に問い合わせてください。いつでも伝承班の活動への参加は歓迎です。

さて現在は、10月に村田ヨシエさんのお家に向ってビデオ撮りした内容を、文章に書き起こす作業をしています。

今まで見たことのない魅力的な手話がた



くさんあります。例えば「縮景園」という手話は、浅野家の家紋（遠鷹の羽）を表現しています。両手の親指と人差し指で形を作り交差して重ねます。「新聞」の手話は、左腕に新聞を抱えて右手で配る動きで表現されます。高齢ろう者が使われている手話や魅力的な手話も、ぜひぜひ伝えていきたいものです。

また、ろう者として感じた戦時中の暗く重い雰囲気や、原爆が落とされた時の様子を語られる表情と手話からは、村田さんの平和に対する強い思いが伝わってきます。この思いを手話で語り継げるように、村田さんからもっとお話しを聴かなければと思っています。

これからの活動として、村田さんが歩んでこられた足跡や、広島に歴史に関わる場所を訪ねたりする予定です。私たち

が生活している広島を、あらためて歩いてみたいと思います。